

# 鳥信 WEB 版 2022 年 10 月号

2022 年 5 月 12 日～8 月 7 日の鳥信

## <筑後エリア>

\*9 月 3 日 エナガ\*±10・大牟田市 石橋（信）

8 時 30 分に東萩尾の自宅前の畑の梅の木に 10 羽程のエナガの群れを見ました。秋から冬にはたまに見ますが、いつ見ても、可愛いですね。

\*9 月 11 日 沖の端川河口のツバメたちと水鳥調査から 松富士将和

今年は、少し時期が早かったので、少なかったようでしたが、沖の端川河口の所では初めはツバメ 15 羽、ショウドウツバメ 25 羽ほどの感じでしたが、40 分位の間では。ツバメ 30 羽、ショウドウツバメ 50 羽いたと思います。

有明海水鳥調査を実施しましたが、今日もシギ・チドリは少なかったです。

アオアシシギ、チュウシャクシギ 2、キアシシギ 1、ダイサギ 24、アオサギ 9、コサギ 1

\*9 月 12 日 秋の有明海水鳥調査から 中嶋秀利

以下の鳥を観察しました。

【三池干拓】 チュウシャクシギ 3、アオアシシギ 21

【矢部川左岸（楠田川河口干潟）】 セイタカシギ 4、アオアシシギ 9

## <九州各地>

\*9 月 11 日 クロハラアジサシ類・白石干拓（佐賀県） 野田(美)

有明海水鳥調査では、担当した矢部川河口にはシギチは 1 羽もいませんでした。

佐賀空港から白石干拓まで足を延ばしてきました。佐賀空港では、ツバメとショウドウツバメが多数群れていました。メダイチドリ 30 数羽とトウネン、キリアイ、コチドリがいました。

白石干拓ではお目当ての内水面系シギチは確認できませんでしたが、クリークをクロハラアジサシが 8 羽飛び回っていました。うち 1 羽はハジロクロハラアジサシではないかと思いますが、どうでしょうか？



△ハジロクロハラアジサシ 撮影：野田(美)



△ハジロクロハラアジサシ 撮影：野田(美)

## ＜2022 年のブッポウソウの記録まとめ＞

八女市矢部村の日向神ダム周辺では今年も**ブッポウソウ**が渡来しました。会員のみなさんの情報から記録を取りまとめました。【鳥信 WEB 版 2022 年 7・8 月号も参照】

今年のブッポウソウは西園橋で 5 月 22 日にペアの渡来が確認されてから 8 月 29 日まで断続的に観察されました。交尾行動や巣穴への出入りが確認され繁殖したものと考えられます。8 月 29 日には幼鳥個体が観察されており、巣立ち雛の可能性もあります。また、笹又橋でも 1 羽観察されたこともあり、繁殖の拡大が期待されます。

**5 月 22 日** 2 羽の渡来が確認される。(栗原氏より・松富士)

**5 月 31 日** 2 羽が電線に止まっていた。時々橋の穴に営巣活動をしたり、雄が雌に餌を与えたりしていた。(中尾)

**6 月 2 日** 2 羽を確認。交尾も確認されており、営巣・抱卵を始めている頃か。(松富士)

**6 月 4 日** 朝 8 時頃、西園橋の電線に 2 羽確認。1 羽は橋の巣穴に入り、もう 1 羽は近くの電線に止まっていた。11 時半頃、笹又橋近くの電線に 1 羽確認。笹又橋の穴には入らなかったが、西園橋の個体と同じか？3 羽いるのか？(江口)

**6月10日** 親鳥 2羽確認。(松富士)

**6月19日** 親鳥 2羽確認。(松富士)

**7月1日** 1羽を確認、いつもの巣営場所に入った。(石橋)

**8月9日** 確認出来ず。(石橋)

**8月10日** 確認出来ず。(石橋)

**8月14日** 第3回ベニアジサシ調査の帰りに西園橋に行き、小一時間待ったが、ブッポウソウは確認できなかった。(野田(美))

**8月29日** 17時半頃、西園橋の巣箱前の電線に止まる2羽を確認。最初、西園橋の橋梁付近の電線等を最初に確認するが居なかったので道路脇の巣箱のポイントに移動、巣箱近くの電線上に止まっている1個体(成鳥?)を確認。すぐ飛び去ったが、しばらくして今度は対岸近くの電線上に2個体を再確認。遠方で夕日も落ちていたのではっきりしないが、嘴の朱色がくすんだ色彩に見えるので幼鳥か?(中嶋秀利)

**8月30日** 巣箱近くの電線に止まる2羽を確認。(栗原氏より中嶋)

**8月31日** 確認できず。(野田(敦))



▲ブッポウソウ(幼鳥と考えられる個体・8月29日) 撮影：中嶋





▲ブッポウソウ(幼鳥と考えられる個体・8月29日) 撮影：中嶋



▲ブッポウソウ(幼鳥と考えられる2羽) 撮影：中嶋



## ＜2022 年のベニアジサシの記録まとめ＞

三池島のベニアジサシは 2014 年以降コロニーとしての繁殖が成立していません。2016 年には最大 355 羽が渡来し、コロニーでの繁殖を始めた時点で大雨のためと思われる大量の営巣放棄があり、その後いなくなりました。2017 年には最大 243 羽の渡来が確認されましたが繁殖は失敗しており、この時はカラスによる捕食があったものと考えられています。その後は 2018 年 15 羽、2019 年 4 羽と少数の確認がされたものの、2020 年には渡来が確認できず、コロニーの消滅が懸念されていました。昨年(2021 年)は 6 羽が確認され、他地域ではほとんど記録されない本種が三池島周辺ではほぼ継続的に記録されていることに期待が残されていました。

本年、611 羽という過去最大級レベルともいえる渡来数が確認されました。残念ながら大規模コロニーとしての繁殖の確認には至りませんでした。調査結果をまとめました。

### 7 月 2 日 第 1 回調査

4 羽のベニアジサシが三池島周辺を飛び回っているのを確認した。4 羽とも地上に降りることはなかった。

### 7 月 16 日 第 2 回調査

57 羽のベニアジサシ成鳥と営巣を確認した。巣は島の北東部に 7 座確認し、すべて 1 座に 1 卵ずつであった。島のコンクリート上でディスプレイも観察され、卵も 1 卵ずつだったことから、繁殖し始めてまだ間もないと思われる。左脚にシルバーリングを付けた個体も 3 羽確認した。



▲7 月 16 日・三池島のベニアジサシ飛翔 57 羽 撮影：松富士

### 8月14日 第3回調査

三池島の外周を3回巡回し、飛来状況のみ確認し、繁殖状況の確認はできなかった。三池島の外周のコンクリート上に降りている数と飛翔している数を合わせて611羽を確認した。近年では多飛来であった。その他島内に降りている個体もいたので合わせて700羽前後は飛来していたと思われる、その中に若鳥（昨年生まれの第1回夏羽）と思われる個体も数羽確認した。また、交尾行動も確認した。



▲8月14日・三池島の外周コンクリートに群れるベニアジサシ 撮影：江口



▲8月14日・ベニアジサシの若鳥 撮影：江口



## 8月28日 第4回調査

成鳥が 300±羽と前回に比べて減少。ヒナ、幼鳥は確認できなかった。営巣数は 18 巣確認、1 巣に 1 個ずつ産卵されていた。飛来数の割には営巣数が少なく、ヒナや前回確認した幼鳥も確認できなかったが、孵化したと思われる殻を 4 個確認した。餌を加えたベニアジサシも見られ、また、求愛給餌行動も確認した。今後、繁殖に成功するか不明であるが、飛来がこれまでに最も遅いパターンとなっており、これが繁殖に影響しているのか？または、産卵前的大雨による影響か？また、脚にシルバーリングを付けた個体を 4 羽確認。



▲8月28日・営巣地を飛び回るベニアジサシ 撮影：江口



▲8月28日・外周コンクリート上のベニアジサシ 撮影：江口





▲8月28日・ベニアジサシの求愛給餌と思われる行動 撮影：江口



▲8月28日・ベニアジサシの産座と卵(1卵) 撮影：江口



## 9月12日 三池島上空・ベニアジサシ 300+の観察 中嶋秀利

三池干拓域(大牟田市)にて有明海水鳥調査のため海岸線堤防沿いに車を走らせながらシギチの確認作業をしていました。西方有明海上の初島、そして遠くの三池島をフィールドスコープで覗いて観ましたところ三池島上を飛び交う**ベニアジサシ**かと思われる鳥類の飛翔群を確認しましたので報告します。

飛翔群はレンズ越しで空気が揺らぎユラユアの映像ではっきり見えませんが 300 羽以上が 3～5 分越しに三池島上空から海上空を大群で移動、海中に飛び込む様子も確認出来ました。当分の間大牟田沖の海上で過ごしてくれるのでしょうか？



△三池干拓から三池島遠望・ベニアジサシと思われる群れ 動画からのスチル画像 撮影：中嶋



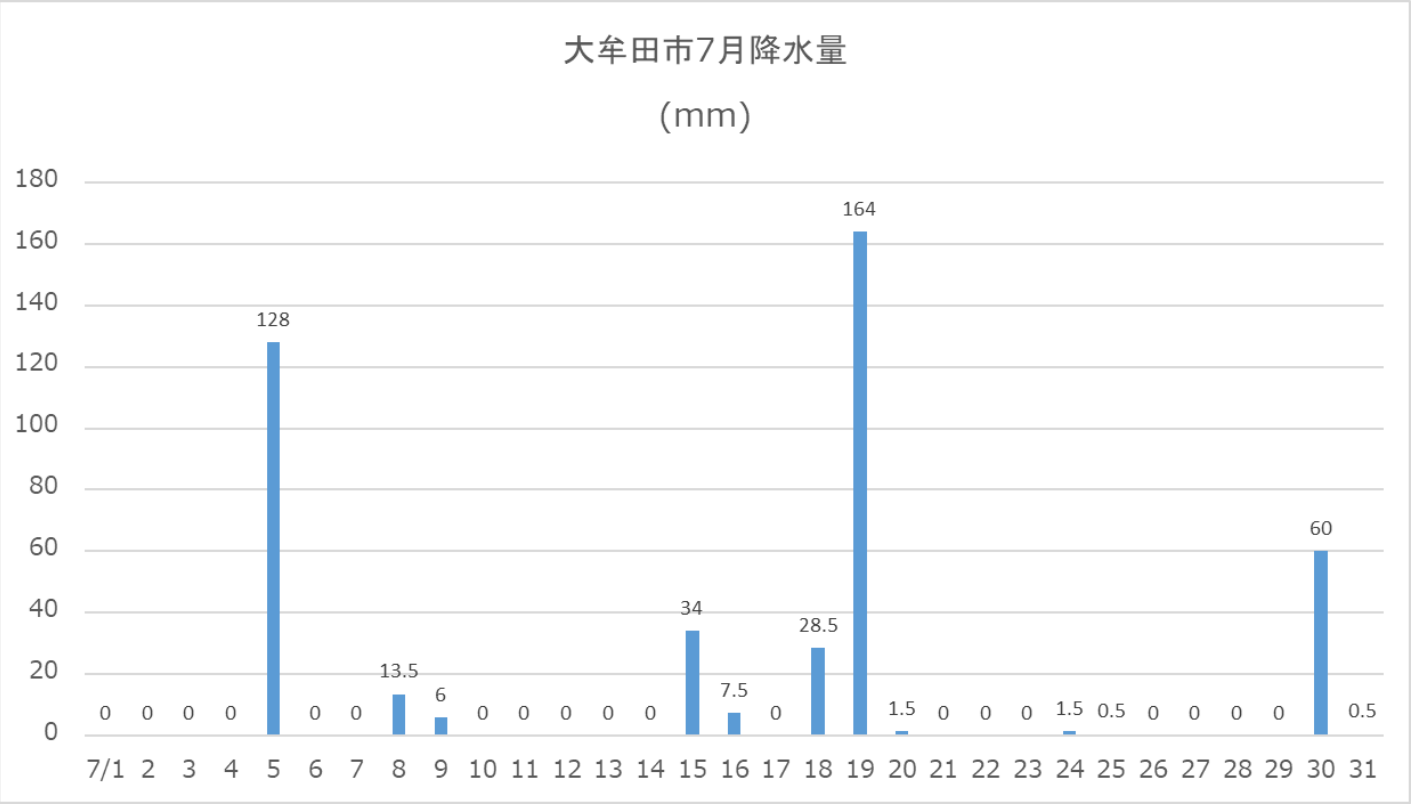
△三池干拓から三池島遠望・ベニアジサシと思われる群れ 動画からのスチル画像 撮影：中嶋





△三池干拓から三池島遠望・ベニアジサシと思われる群れ 動画からのスチル画像 撮影：中嶋

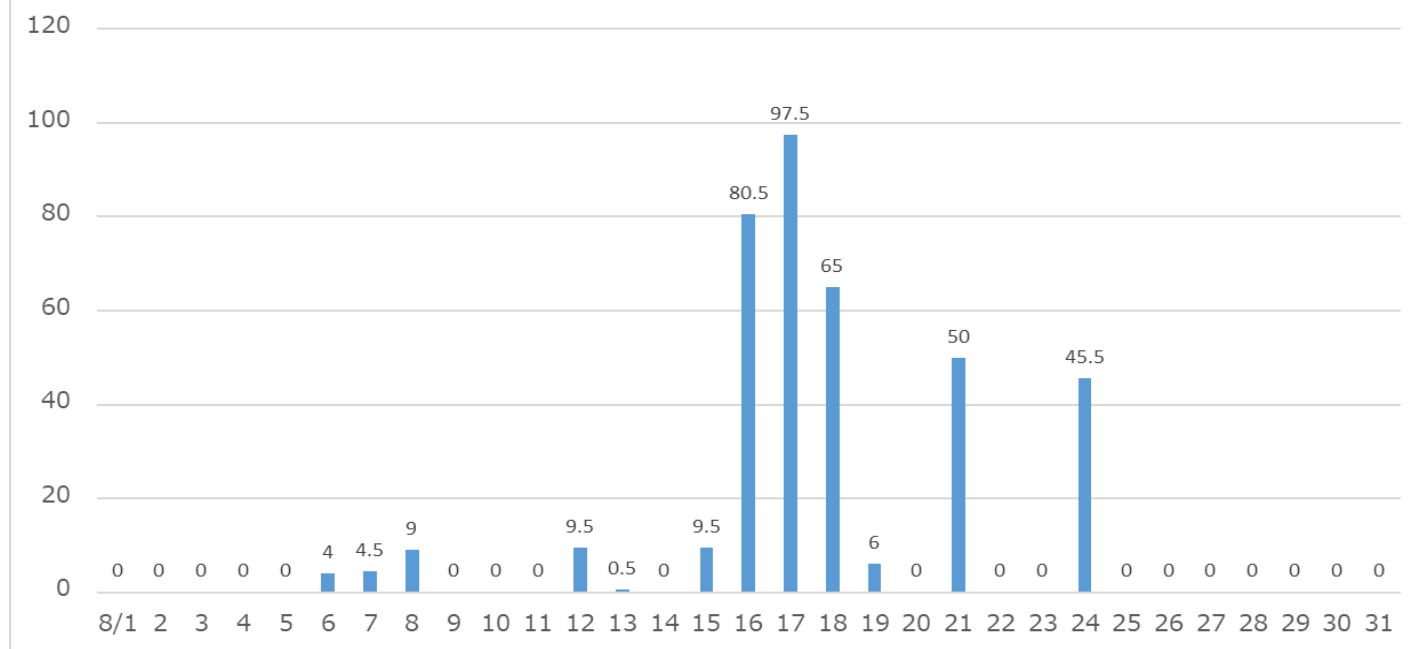
福岡県大牟田市の 7 月と 8 月の降水量（気象庁データより）



7 月 16 日の調査の直後の 19 日に大雨が降っており、最初の繁殖は阻害されたと思われます。



大牟田市8月降水量  
(mm)



8月14日の調査では外周調査のため繁殖状況を確認できませんでしたが、直後の16日～18日に大雨が降っており、仮に多数飛来していたベニアジサシが繁殖コロニーを形成していたとしても、2016年と同様に営巣放棄してしまった可能性があります。

しかし、その時点で渡去せずに8月28日にも300羽ほどの個体が残存し、若干の営巣、産卵も確認されたことは、遅い繁殖が成功したのか興味深いところです。繁殖の成功は確認できませんでしたが、陸からの観察で、9月中旬にも相当数のベニアジサシが三池島に残っていたことが分かりましたので、抱卵、育雛を続けていた可能性も考えられます。

さらに、来年以降の繁殖コロニーの確認が期待されます。

## 過去28年間の渡来数の変遷

